



香美町香住区余部地区の平家武者たち。矢を射る。次々と矢を射る武者たちが香美町香住区余部地区の平家武者たちも目

戦い(1895年)の後、平家の武者らが逃げ延び、隠れ住んだと言います。伝えがあり、その際食料にたどまれるマナチ科の「平家オマ」も目生している。  
(小呂回務)

### 伝統の「百手の儀式」

香美町地区  
御崎地区

### 株姿きりりの射抜く

地元の若者が10本から穂巻を纏り歩き、地区の平内神社へ。3人の儀式が28日、香美町が地元で作った弓や矢で、約5分離れた香住区余部の御崎地区(岡辻護寺自治会長、16狙った。周囲では地元の花や巨)であった。地区には平家の落人伝マナチオカマツな説が残る、復讐を願ってどが鼻寄り、射手が長き修練を積んだのが始まり約3時の言を使って見事とされ、今年は高校1年に的の中心を射抜くと大きな歓声を上げた。32年の中野泰幸君(16)、中学の回野の射手を務めた中野同1年の下原倫君(13)の泰幸君は「今年が一番3人が射手を務めた。まくてきた。的の中心に株姿などの男性十数人がひかえ、ひかえ」足音に話していた。なご天を産を上げな御崎地区には壇ノ浦の